

■殺菌剤：農業用

グアニジン系

ベルコート®水和剤

登録番号：18821

毒性：－

消防法：－

有効年限：5年

成分 イミノクタジナルベシル酸塩……40.0%

物理的・化学的性状 類白色水和性粉末45 μ m以下

包装：500 g × 20

◆特長

- 多くの病害に対して、高い防除効果を示します。
- 接触型の予防薬剤で胞子発芽、発芽管伸長、付着器形成、侵入菌糸形成等を強力に阻害します。
- 他剤耐性菌に対しても作用機構が異なるため、優れた効果を示します。

◆適用と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イミノクタジンを含む 農業の総使用回数
りんご	黒星病	2.000倍	200～700 L /10a	収穫前日 まで	6回以内 (但し、開花 期以降散布は 3回以内)	散布	8回以内 (液剤及び水和剤は 合計6回以内(開花 期以降は3回以内)、 塗布剤は2回以内)
	斑点落葉病	1.000～ 2.000倍					
	輪紋病	1.000倍					
	褐斑病						
	すす点病 すす斑病 黒点病						
なし	黒斑病	1.000～ 1.500倍		収穫14日前 まで	5回以内		5回以内 (塗布剤は2回以内、 液剤は1回以内)
	黒星病						
	輪紋病						
	うどんこ病						
もも	黒星病	2.000倍		収穫前日 まで	3回以内		3回以内 (休眠期は1回以内)
	灰星病	1.000～ 2.000倍					
	ホモプシス腐敗病						
	うどんこ病						
	すすかび病 果実赤点病						
おうとう	灰星病	1.000倍	収穫7日前 まで	3回以内	3回以内		
みかん	灰色かび病	1.000～ 2.000倍	収穫前日 まで				
	そうか病	1.000倍					
かんきつ (みかんを除く)	灰色かび病	2.000倍		2回以内	2回以内		

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イミノクタジンを含む 農薬の総使用回数	
かき	炭疽病 落葉病 うどんこ病 灰色かび病 すす点病 黒星病	1,000～ 1,500倍	200～700g ／10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内	
キウイフルーツ	果実軟腐病 灰色かび病 貯蔵病害 (灰色かび病)	1,000倍		収穫前日 まで	5回以内		5回以内	
小粒核果類 (うめ、すもも を除く)	黒星病 灰星病 灰色かび病 環紋葉枯病 すす斑病	2,000倍		収穫30日前 まで	3回以内		3回以内	
うめ	黒星病 灰星病 灰色かび病 環紋葉枯病 すす斑病 枝枯病							
びわ	灰斑病 灰色かび病	1,000倍		収穫7日前 まで	2回以内		2回以内	
すもも	灰星病	1,000～ 2,000倍		収穫3日前 まで				
マンゴー	炭疽病	1,000倍		収穫75日前 まで				
あけび(果実)	うどんこ病	3,000倍		収穫14日前 まで	2回以内		2回以内	
すいか	うどんこ病 つる枯病 菌核病 炭疽病	1,000倍		100～300g ／10a	収穫前日 まで		4回以内	4回以内
メロン	うどんこ病 つる枯病						5回以内	5回以内
かぼちゃ	うどんこ病	1,000～ 2,000倍	収穫7日前 まで		4回以内	4回以内		
ズッキーニ		2,000倍	収穫前日 まで		7回以内	7回以内		
きゅうり	褐斑病 うどんこ病 灰色かび病 炭疽病	2,000～ 4,000倍						

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イミノクタジンを含む 農薬の総使用回数		
う り 類 (漬物用)	うどんこ病 つる枯病 炭疽病	2,000～ 4,000倍	100～300ℓ ／10a	収穫3日前 まで	5回以内	散布	5回以内		
な す	すすかび病 灰色かび病 うどんこ病	3,000倍		収穫前日 まで			3回以内	3回以内	
アスパラガス	茎枯病 斑点病 褐斑病	1,000倍	100～500ℓ ／10a	収穫7日前 まで	5回以内		5回以内		
たまねぎ	灰色かび病 灰色腐敗病 小菌核病			収穫前日 まで			5回以内		
ね ぎ	葉枯病 さび病 黒斑病	2,000倍	100～300ℓ ／10a	収穫30日前 まで	3回以内		3回以内		
にんにく	葉枯病	1,000～ 1,500倍		収穫3日前 まで					
にんじん	菌核病	1,000倍		乾燥種子 重量の0.5%	収穫14日前 まで			5回以内	5回以内 (種子粉衣は1回 以内、無人航空 機散布は2回以 内)
	黒葉枯病	500～ 1,000倍	は種前		1回		種子 粉衣		
ト マ ト	葉かび病	3,000～ 6,000倍	100～300ℓ ／10a	収穫前日 まで	3回以内		散布	3回以内	
ミニトマト	灰色かび病	6,000倍			2回以内			2回以内	
レ タ ス	灰色かび病 菌核病	1,000～ 2,000倍		収穫30日前 まで	3回以内	3回以内			
キャベツ	菌核病	1,000倍		収穫28日前 まで					
い ち ご	炭疽病 うどんこ病			育苗期 (定植前)	5回以内			収穫前日 まで (生育期)	10回以内 (育苗期は5回以内、 本圃では5回以内)
	う どん こ 病	4,000倍							
豆 類 (種実、ただし、 だいずを除く)	うどんこ病 炭疽病 褐斑病	1,000倍		乾燥種子 重量の0.5%	は種前	1回		種子 粉衣	4回以内 (種子粉衣は1回以内)
だ い ず	紫斑病					1回			
ばれいしょ	夏疫病	500倍		100～300ℓ ／10a	収穫7日前 まで	5回以内		散布	5回以内

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イミノクタジンを含む 農薬の総使用回数
やまのいも	葉渋病	1,000～ 2,000倍	100～300ℓ ／10a	収穫7日前 まで	5回以内	散布	5回以内 (種いもへの処理は 1回以内、無人航空 機散布は3回以内)
	青かび病	—	種いも 重量の1%	植付前	1回	種いも 粉衣	
てんさい	斑点病 褐斑病	1,000倍	100～300ℓ ／10a	収穫14日前 まで	4回以内	散布	4回以内
小 麦	赤かび病	1,000～ 2,000倍	60～180ℓ ／10a	収穫21日前 まで	3回以内 (出穂期以降 は1回以内)		4回以内 (種子への処理は1回 以内、散布及び無人 航空機散布は合計3 回以内、出穂期以降 は1回以内)
茶	炭疽病 輪斑病 新枝枯死症 (輪斑病菌による)	1,000倍	200～400ℓ ／10a	摘採14日前 まで	2回以内		2回以内
たばこ	赤星病 うどんこ病 灰色かび病	1,000～ 2,000倍	100～180ℓ ／10a	収穫10日前 まで			
樹木類	炭疽病	1,000倍	200～700ℓ ／10a	発病初期	3回以内		3回以内

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

◆注意事項

- (1)本剤はイミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。
- (2)りんごに使用する場合、芽出し2週間過ぎから落花後25日ごろまではさび果を生じる恐れがあるので、この時期の散布は避けること。
- (3)なしに使用する場合、西洋なし品種ル レクチエではさび果を生じるので使用しないこと。
- (4)ももに使用する場合、缶桃14号等の缶詰用品種では葉に葉斑を生じるので使用しないこと。
- (5)本剤をおうとうに使用する場合、着色始期から中期の散布では葉害（着色障害）が生ずる恐れがあるので使用しないこと。
- (6)かきに使用する場合、西村早生では葉に葉斑を生じるので使用しないこと。
- (7)メロンに使用する場合、交配2～3日前から交配2週間後までの幼果の時期には、葉害を生じるおそれがあるので、この時期の散布は避けること。また、若葉への散布や高温時の散布では、葉害を生じることがあるので注意すること。
- (8)キャベツに使用する場合、浸透性を高める効果のある一部の展着剤を混用すると葉害を生じる場合があるので、展着剤混用にあたっては事前にその適否を確認すること。
- (9)ばらに対して葉害を生じるので、かからないように注意して散布すること。
- (10)蚕に対して毒性があるので、桑にかからないように注意して散布すること。
- (11)散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。

- (12) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (13) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (14) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (15) 取扱及び保管上の注意、漏出時の措置、廃棄上の注意、輸送上の注意、火災時の措置については、11ページ、12ページを参照すること。

◆安全使用上の注意

- (1) 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 薬液調製時及び使用の際は保護眼鏡、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (7) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

◆魚毒性

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。